

日本細胞診断学推進協会 細胞検査士会

細胞検査士とは「がん細胞」を
探しだすのが仕事です。

臨床検査技師の免許を取得後特定非営利活動法人日本臨床細胞学会の行う細胞検査士認定試験に合格しその資格を有する者。

有資格者数；約6465名(平成21年10月)
会 員 数；約6465名(平成21年10月)

癌の早期発見や早期診断を目的に、人体の細胞の一部を採取し形態学的基準に基づき、癌細胞だけでなく癌細胞と紛らわしい異型細胞や前癌病変に相当する異形成細胞の存在を顕微鏡で観察して発見することが主な実務である。実際には細胞検査材料の採取の介助、適切な細胞処理の選択、検査に必要な染色法の選択、検査結果の精度管理、標本の管理と保存など一連の検査実務も担当する。(臨床検査技師の業務も含まれる)

29

課題1：人員数と適正配置

- ◆配置基準がないために、チーム自体の構成メンバーに入っていない。



【課題の解決策】

診療体制の整備

1) 診療従事者；
細胞検査士の配置の義務化

2) 医療施設；
細胞診断部門の設置化

30

課題2: 卒後教育

- 学会での卒後教育制度は整備されているが、社会的評価が低い。

細胞検査士認定試験に合格した者に国際細胞検査士認定試験 (International Academy of Cytology; CT, IAC) 認定試験の受験資格が与えられる。この試験は2年に1回、日本でも実施されている。

生涯学習の実践として4年に一度の資格の更新



【課題の解決策】

• 国家資格化、専門細胞士検査士制度、など

31

課題3: 技術に対する評価

専門職としての専門技術に評価がない

- 単価が低く、標本作製、迅速診断などにコストが設定されていない。
- 陰性標本の取り扱いに対して明確なルールが設定されていない。
(悪性細胞が認められた標本は必ず細胞診専門医とのダブルチェック後に報告される。)



【課題の解決策】

1. 細胞診断の専門性を正當に評価する。
2. 法律内容を社会状況に即し、理解できるようにする。

32